令和6年 第10回宮代町農業委員会総会会議録

1. 開催日時 : 令和6年10月25日(金) 15時00分から15時30分
2. 開催場所 : 宮代町役場 202会議室
3. 委員出欠状況

議席	氏名	出欠席	議席	氏名	出欠席
1	大島 悟	○	2	福澤 邦夫	○
3	岡村 宏一	○	4	森山 松年	○
5	日下部 好克	○	6	関根 武男	○
7	深井 一郎	○	8	川田 美千代	—
9	飯塚 信利	—	10	島村 重昭	—
11	齋藤 幸江	○	12	中野 松夫	—
13	岩本 勝正	○	14	折原 正英	○

4. 議事日程

日程第1	議事録署名委員の指名について
日程第2	農地法第3条の規定による許可申請について
日程第3	農業振興地域整備計画の変更に係る農業委員会協議について
日程第4	宮代農業振興地域整備計画書の変更に係る農業委員会協議について
日程第5	水稻の斑点米カメムシ被害に関する要望書について
	報告事項

5. 農業委員会事務局職員

事務局	産業観光課長	小川 英一郎
	産業観光課主幹	鈴木 功
	農地調整担当専門員	成田 雅彦
	農地調整担当主事	益子 智渚
	農地調整担当主事	杉本 花英

農地の総面積は 10,778 m²になります。

なお、町外の農地での経営状況については、春日部市農業委員会及び幸手市農業委員会へ照会をし、きちんと耕作されていることを確認しております。

町内の農地につきましては、事前に事務局において調査を行い、現況を確認しておりますが、皆さまにも現在の耕作状況について、御確認していただきます。

(現状の確認)

譲受人の耕作地の説明は以上となります。

最後に、農地法第3条第2項に基づく「判断基準4点」と照らし合わせて、本案件の許可の審議をお願いいたします。

基準の1点目は、「全部効率利用要件」です。これは経営している農地を全て効率的に利用し、耕作しているか否かという判断基準となります。今回の譲受人について、農業機械や労働力・技術が十分であるかどうかの視点で判断する必要があります。申請書においては「耕耘機」、「トラクター」を各1台と「農業用自動車」を3台所有しており、本人および世帯員が耕作する旨の記載がありました。

2点目は、「農作業常時従事要件」です。こちらは譲受人又は世帯員が農業経営に必要な農作業に常時従事する必要があるというもので、年間150日以上働いているか否かが判断基準となります。今回の場合は、世帯主である譲受人本人が農業従事者として農家基本台帳に登録されており、申請書には本人が年間240日従事と記載されておりました。

3点目は、「農地所有適格法人の要件」についてですが、該当はございません。

4点目は、「地域との調和要件」でございます。この要件につきましても、地域での取り組みを遵守することから特に問題ないと考えます。

以上の観点から、農地法第3条第2項の各号の許可要件を全て満たしているものと考えます。

以上で説明を終了させていただきます。御審議の程、よろしく申し上げます。

(会長)

それでは1件目の案件について御審議お願い申し上げます。

(■番 ■■委員)

先程、現地を確認して参りましたが、ハウスの中の土地の交換ということで

何も問題ないと思いますので、御審議の程よろしくお願いいたします。

(会長)

他に御意見ありますでしょうか。

御意見ないようでございます。それではこの件に関しましては、「やむを得ない」としてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願い申し上げます。

<全員挙手>

(会長)

「挙手全員」ということで、この件については「やむを得ない」とすることといたします。

続きまして2件目の案件につきまして、事務局説明お願い申し上げます。

(事務局)

それでは、御説明いたします。

申請地は■■■地内の畑1筆で、面積は1,150㎡でございます。譲受人譲渡人ともに宮代町内にお住まいの方です。権利の移転形態は、「所有権移転」です。詳細につきましては、お手元の議案書及びモニターを御参照ください。

それでは、本申請の経緯について御説明いたします。申請地に隣接する農地である■■■■■■■■■■が譲受人の所有地であるため、申請地を取得し、自身の所有農地として集約化を図ることを目的に今回申請に至ったものです。

申請地の位置ですが、案内図を御覧ください。こちらも1件目同様■■■■■■■■■■■■■■■■の北東側に位置しています。公図で見ますと、このような形となります。現況写真はこちらです。譲受人の作付計画によりますと、農地の取得後、「ナス」や「きゅうり」などの野菜を作付けする計画となっております。申請地の現況につきましては、以上です。

次に、譲受人の耕作状況について御確認頂きます。譲受人の経営農地は、宮代町内に4筆、総面積は2,774㎡になります。

事前に事務局において、調査を行い、現況を確認しておりますが、皆さまにも現在の耕作状況について、御確認していただきます。

(現状の確認)

譲受人の耕作地の説明は以上となります。

最後に、農地法第3条第2項に基づく「判断基準4点」と照らし合わせて、

本案件の許可の審議をお願いいたします。

基準の1点目は、「全部効率利用要件」です。これは経営している農地を全て効率的に利用し、耕作しているか否かという判断基準となります。今回の譲受人について、農業機械や労働力・技術が十分であるかどうかの視点で判断する必要があります。申請書においては「田植機」、「トラクター」、「コンバイン」を各1台所有しており、本人および世帯員が耕作する旨の記載がありました。

2点目は、「農作業常時従事要件」です。こちらは譲受人又は世帯員が農業経営に必要な農作業に常時従事する必要があるというもので、年間150日以上働いているか否かが判断基準となります。今回の場合は、世帯主である譲受人本人が農業従事者として農家基本台帳に登録されており、申請書には本人が年間150日従事と記載されておりました。

3点目は、「農地所有適格法人の要件」についてですが、該当はございません。

4点目は、「地域との調和要件」でございます。この要件につきましても、地域での取り組みを遵守することから特に問題ないと考えます。

以上の観点から、農地法第3条第2項の各号の許可要件を全て満たしているものと考えます。

以上で説明を終了させていただきます。御審議の程、よろしく申し上げます。

(会長)

それでは2件目の案件について御審議お願い申し上げます。

(■番 ■■委員)

先程、現地を確認して参りました。土地の交換ということなので、何も問題ないと思いますので、御審議の程よろしくをお願いいたします。

(会長)

他に御意見ありますでしょうか。

御意見ないようでございます。それではこの件に関しましては、「やむを得ない」としてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願い申し上げます。

<全員挙手>

(会長)

「挙手全員」ということで、この件については「やむを得ない」とすることといたします。

続きまして3件目の案件について、事務局説明お願い申し上げます。

(事務局)

それでは、御説明いたします。

申請地は■■■地内および■■地内の田 10 筆で、面積は 3,939 m²でございます。譲受人は川口市にお住まいの方で、譲渡人は越谷市にお住まいの方です。権利の移転形態は、「所有権移転」です。詳細につきましては、お手元の議案書及びモニターを御参照ください。

それでは、本申請の経緯について御説明いたします。譲受人はパキスタン出身の方で、日本には約 40 年在住しています。これまで実家の手伝いや家庭菜園などで、10 年以上にわたり農業を経験していましたが、この度本格的に農業を始めたいと考え農地を探していたところ、今回の申請地が譲受人の希望に合った土地であったため、譲渡人と相談の上今回申請に至りました。

申請地の位置ですが、案内図を御覧ください。■■■■■■の南東側、前原中学校付近に位置しています。公図で見ますと、このような形となります。現況写真はこちらです。譲受人の作付計画によりますと、農地の取得後、「チョンサ種マンゴー」や「バスマティ米」を作付けする計画となっております。申請地の現況につきましては、以上です。

なお、今回の申請者は経営農地を所有しておりませんが、事前に営農計画書を提出していただき、営農計画書については 8 月総会で皆様に御審議いただいております。

最後に、農地法第 3 条第 2 項に基づく「判断基準 4 点」と照らし合わせて、本案件の許可の審議をお願いいたします。

基準の 1 点目は、「全部効率利用要件」です。これは経営している農地を全て効率的に利用し、耕作しているか否かという判断基準となります。今回の譲受人について、農業機械や労働力・技術が十分であるかどうかの視点で判断する必要があります。申請書においては「田植機」、「トラクター」、「耕耘機」を各 1 台所有しており、本人および世帯員が耕作する旨の記載がありました。

2 点目は、「農作業常時従事要件」です。こちらは譲受人又は世帯員が農業経営に必要な農作業に常時従事する必要があるというもので、年間 150 日以上働いているか否かが判断基準となります。今回の場合は、申請書には本人が年間 310 日従事と記載されておりました。

3 点目は、「農地所有適格法人の要件」についてですが、該当はございません。

4 点目は、「地域との調和要件」でございます。この要件につきましても、地域での取り組みを遵守することから特に問題ないと考えます。

以上の観点から、農地法第 3 条第 2 項の各号の許可要件を全て満たしているものと考えます。

以上で説明を終了させていただきます。御審議の程、よろしく申し上げます。

(会長)

それではこの件について御審議お願い申し上げます。

(■番 ■■委員)

先程、現地を見て参りました。こちらの土地は、以前は背の高い草で埋まっていたのですが、綺麗になっていました。他は、草は生えてしまっていますが、本人がユンボを入れて綺麗にするということでしたので、周りに影響はないかと思っておりますので、御審議の程よろしく願いいたします。

(会長)

他に御意見ありますでしょうか。

御意見ないようでございます。それではこの件に関しまして、「やむを得ない」としてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願い申し上げます。

<全員挙手>

(会長)

「挙手全員」ということで、この件については「やむを得ない」とことといたします。

(会長)

続きまして、日程第3・議案第25号「農業振興地域整備計画の変更に係る農業委員会協議について」を上程いたします。今回は除外の申出が3件ございます。全案件の説明終了後まとめて御審議願います。それでは事務局説明お願い申し上げます。

(事務局)

それでは御説明いたします。令和6年5月受付分の除外につきましては、敷地拡張が3件となっております。

それでは1件ずつ御説明いたしますので、お手元の資料またはモニターを御覧ください。

1件目の申出地は■■■地内の畑1筆で、面積は344㎡のうち0.61㎡を利用する計画となっております。事業計画者は現在町外にお住まいの方です。転用目的は「敷地拡張」になります。権利の移転形態は、「所有権の移転」です。

今回申出に至った経緯について御説明します。事業計画者は、申出地の隣地である宅地の所有者です。この度その住宅が古くなったため、建て替えを検討

していましたが、現在の宅地に隣接している道が法定外道路であるために接道の要件を満たせず、建て替えが行えない状況となっています。そのため、建て替えに伴い接道を確保する目的で、今回申出に至ったとのこと。

申出地の位置につきましては、位置図及び案内図を御覧ください。■■■■■■の西側に位置しているこちらの土地でございます。なお、除外後の農地種別については、第1種農地となります。

次に土地利用計画図を御確認ください。今回は既存宅地の敷地拡張のため、新たな建築物はありません。赤枠部分が今回の申出地であり、青枠部分の宅地の接道箇所として利用される計画です。申出地の現況につきましてはこちらのとおりです。1件目の説明は以上となります。

2件目の申出地は■■■■地内でございます畑1筆で、面積は129㎡全体を利用する計画となっております。事業計画者は現在町内にお住まいの方です。転用目的は「敷地拡張」になります。権利の移転形態は、「所有権の移転」です。

今回申出に至った経緯について御説明します。事業計画者は、申出地の隣地である宅地を所有している方です。現在は仕事の都合で遠方に仮住まいをしていますが、1年後にはその宅地に戻る予定があり、それに伴い既存宅地に隣接する土地にカーポートを新設するため今回申出に至ったとのこと。

申出地の位置につきましては、位置図及び案内図を御確認ください。■■■■■■の北東側に位置しているこちらの土地でございます。なお、除外後の農地種別については、第1種農地となります。

次に土地利用計画図を御確認ください。今回の計画では、申出地にカーポートを建築する予定です。建築面積は29.90㎡です。現況につきましてはこちらのとおりです。2件目の説明は以上です。

3件目の申出地は■■■■■■■■■■地内でございます畑2筆で、面積は1,024㎡のうち27㎡を使用する計画となっております。事業計画者は、現在町内にお住まいの方です。転用目的は「敷地拡張」になります。権利の移転は発生しません。

今回申出に至った経緯について御説明します。事業計画者は、申出地の隣地である宅地を所有している方です。現在その宅地には、事業計画者の母が居住しています。かつては、既存宅地に隣接していた町道■■■■号線が法定道路だったため、接道を確保できていましたが、この道路が建築基準法第42条第2項の廃止により法定外道路になったことに伴い、既存宅地は接道が無くなってしまいました。それに伴い接道を新たに確保するために今回申出に至ったとのこと。

申出地の位置につきましては、位置図及び案内図を御覧ください。■■■■■■■■の南西側に位置しているこちらの土地でございます。なお、除外後の農地種別については、第1種農地となります。

次に土地利用計画図を御確認ください。今回は既存宅地の敷地拡張のため、新たな建築物はありません。赤枠部分が今回の申出地であり、青枠部分の宅地の接道箇所として利用される計画です。黄色の枠に関しましては先程御説明した法定外道路でございます。現況につきましてはこちらのとおりです。

以上で説明を終了させていただきます。御審議の程よろしくお願ひいたします。

(会長)

それではまず、1件目の案件について御審議お願ひ申し上げます。

御意見ないようでございます。それではこの件に関しましては、「やむを得ない」としてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願ひ申し上げます。

<全員挙手>

(会長)

「挙手全員」ということで、1件目の案件については「やむを得ない」といたします。

続きまして、2件目の案件について御審議お願ひ申し上げます。

御意見ないようでございます。それではこの件に関しましては、「やむを得ない」としてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願ひ申し上げます。

<全員挙手>

(会長)

「挙手全員」ということで、2件目の案件についても「やむを得ない」といたします。

最後に、3件目の案件について御審議お願ひ申し上げます。

御意見ないようでございます。それではこの件に関しましては、「やむを得ない」としてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願ひ申し上げます。

<全員挙手>

(会長)

「挙手全員」ということで、3件目の案件についても「やむを得ない」といたします。

(会長)

続きまして、日程第4・議案第26号「宮代農業振興地域整備計画書の変更に係る農業委員会協議について」を上程いたします。それでは事務局説明お願ひ

申し上げます。

(事務局)

それでは、「宮代農業振興地域整備計画書」の変更について御説明いたします。お手元の「宮代農業振興地域整備計画書」と「宮代農業振興地域整備計画書変更概要」に沿って御説明いたします。

まず、概要書を御覧ください。1には、農業振興地域整備計画とはどんな計画かということが書かれております。農業振興地域整備計画とは、「農業振興地域の整備に関する法律第8条」に位置付けられた計画でして、農業としての利用の確保を図るため、簡単に言いますと農地を守るために行う土地利用規制の基礎となる具体的な農用地利用計画や、農業生産を図るために行う基盤整備や農業担い手の育成・確保等について、その方向性や計画などが定められたマスタープランの2部構成となっております。

昭和48年度に埼玉県によって農業振興地域が指定されました。本町では同年に本計画を策定し、その後、4回の計画変更を経て今回5回目の変更になります。直近の変更は平成30年度で、和戸横町の工業団地の土地区画整理事業に伴いまして21.5haを除外しております。

次に計画書を1枚めくっていただきまして、目次を御覧ください。

目次の第1が農用地利用計画で第2の農業生産基盤の整備開発計画から第8の生活環境施設の整備計画までがマスタープランとなっております。これらの項目は国が定めた「農業振興地域制度に関するガイドライン」によって決められております。

続いて概要書に戻っていただきまして、2の計画変更に当たっての検討方法でございますが、(1)の農用地利用計画では、町の上位計画に総合計画と都市計画マスタープランがありますが、これらの計画に土地利用検討ゾーンに指定されている区域の土地利用状況を踏まえ検討いたしました。土地利用検討ゾーンとは、将来町が活性化するために農地以外の土地利用を検討していく区域でございます。我々は農地を守る立場ではありますが、企業誘致による税収の増や商業施設の誘致による賑わいや生活の利便性の向上など、町が直面している課題にも対応していかなければなりません。

次に(2)のマスタープランにつきましては、令和3年度に実施した農業振興地域整備計画に関する基礎調査の結果や情勢の変化に対応した適切な計画として確保するべく、町全体の施策の状況・動向等を踏まえ総合的に検討いたしました。

続いて3の主な計画変更の内容でございますが、3-1 農用地利用計画の(1)農用地区域の設定方針になります。計画書の方は3ページになります。町の上位

計画である総合計画や都市計画マスタープランとの整合を図るため、次の事項を追加しました。

「優良農地の保全を基本とし、宮代町総合計画において周辺の自然環境との調和及び保全を重視しながら町の活力創出・利便性に資する新たな土地利用を検討するとされた土地は、営農に支障が生じるおそれのない場合、農用地区域に含めないことができる。」これを追加する理由といたしましては、町の計画で農用地区域内にある土地を開発するにあたって県農林と事前調整を行うわけですが、その計画が町の総合計画に位置付けられていなければ門前払いとなるため、総合計画に位置付けられていることが除外の最低条件となります。その後、農業振興地域の整備に関する法律第10条第3項各号に除外の基準が定められており、それに該当するか検討を行いまして、最終的に除外できるかどうか県が判断いたします。

続いて、(2)になりますが農用地利用計画に農用地からの除外地を追加しました。計画書の後ろの方に農用地区域から除外された土地が記載されておりまして、ここに和戸駅西側地区の約10.3haを追加しました。

概要書の右下の和戸駅西側地区の航空写真を御覧ください。ピンク色の箇所が除外対象範囲です。この図面で示しますと上が東武鉄道、左が備前堀川、下が12m道路の町道第67号線、右が須賀小中学校に挟まれた約10.3haの区域となっております。

(3)の和戸駅西側の現状でございますが、①といたしまして、農地と住宅が混在しております。このエリアの農地面積は約6.3haで、61.2%の割合となっております。農地の内訳は水稻が約0.7haで陸田となっております。農地面積に対する割合は11.1%です。畑は約1.8haで割合は28.6%です。管理耕作地は約3.8haで割合は60.3%を占めています。管理耕作地を農地から外しますと農業を営んでいる農地はこのエリア内の約40%になります。そして航空写真のとおり住宅が78戸混在している状況となっております。

②といたしまして、この地域は、一体的に水田利用されてきましたが、和戸駅前という立地から土地利用の変化による宅地の増加に伴い、備前堀川から水を引く揚水機場が廃止され取水ができなくなったことで、水田利用が減少しました。現在の水田は5筆のみが耕作していますが、個人で井戸を掘りポンプアップした井戸水で営農している状況です。

次に③になりますが、残土の不法投棄が1,004㎡の畑に約3,300㎡存在しております。この不法投棄残土の処分についてはマスコミでも取り上げられ、町の課題のひとつにもなっております。

そして④といたしまして、この地域は町の総合計画と都市計画マスタープランにおいて土地利用検討ゾーンに指定されております。このようなことから、

この和戸駅西側地区の約 10.3 haにつきましては、営農を推進する環境ではないと判断し、農用地区域から除外いたしました。

続きまして、概要書の裏面を御覧ください。主な計画変更内容のマスタープランについてでございます。(1)の町の農業の課題といたしましては、まず①の農業従事者の高齢化です。町内の全農家の皆様にアンケート調査を実施した結果、後継者がいない又は後継者が不明確と回答した方が 51.9%ありました。

続いて、②の耕作放棄地の増加です。これは、農業従事者の高齢化に関連する課題となっています。

次に、③として農地の一区画当たりの面積が狭く、耕作がしにくいということです。これにより生産性や収益性が低くなっております。

次に、④として水路などの農業用施設が未だに土水路であったり、未改修の箇所があります。これらのように農業基盤が整っていないと高齢化とともに農業従事者が減少し、耕作放棄地の増加が懸念されるということになります。町の農家の現状として、担い手不足と高齢化によって作付けされない土地を持った農家の割合が高いため、利用集積による農地の貸し借りの促進や耕作放棄地の解消に向けた取組みが今後必要となります。

これらの課題に対する方策といたしまして、矢印の下になりますが方策①として農業基盤の整備になります。まず一つ目として水路の改修を計画的に進めていきます。計画書は 9 ページになりますが、農業生産基盤整備開発計画として用排水路の改修を行います。現在百間地区において、県費単独土地改良事業の採択を受け、改修工事を進めております。

二つ目として宮東・中島地区ほ場整備事業による圃場の大区画化でございます。この事業は県営事業として実施されております。面積が 51.1 ha で事業費は 6 億 8,000 万円で、1 億 5,300 万円を町が負担しております。事業期間は令和 6 年度から 8 年度までの 3 か年で、受益者数は 123 人となっております。内容といたしましては、道路と水路の改修と田んぼの畦畔を取り除き圃場の大区画化を行います。

計画書の 19 ページの次に図面がありまして、2 枚目の付図 2 号農業生産基盤開発計画図がございますので、そちらを御覧ください。図面が小さくて見えにくく申し訳ございませんが、水色で示してある箇所が用排水路の整備を重点的に実施している箇所でございます。薄緑で示している箇所が宮東・中島地区ほ場整備事業の実施箇所となります。

続いて、概要書に戻っていただきます。農業基盤の整備の 3 つ目として、水田区画の面積拡大を目的としたコンクリート畦畔の撤去等への支援制度の利用促進を図ります。宮東・中島地区のように大規模なエリアで実施するのではなく、担い手農家さんが今現在耕作している土地の畦畔を取り除いて利用集積し

やすいように、小規模農地基盤整備事業補助金により支援を行っていきます。

続いて、方策②の農業担い手への支援です。新規就農者や農業後継者の育成を図ります。計画書は14ページから15ページになりますが、「宮代町農業担い手塾」での計画的な研修生の受け入れと町内農家と連携した「新規就農里親制度」による細かな支援や森の市場「結」や生産者組合と連携して、経営の定着・安定に向け販路の拡大等を支援します。

続いて、方策③の設備投資や6次化への支援です。計画書は14ページになります。第5農業近代化施設の整備計画、1農業近代化施設の整備の方向、(3)高付加価値、収益性向上への投資に対する支援で、高価な農業用機械や栽培施設への投資について、継続的な支援を実施し、収益性の向上、高付加価値化の一環として6次産業化への支援を行っていきます。

17ページでは2農業従事者の安定的な就業の促進を図るための方策の(2)収益力の確保として、農業経営の規模拡大や6次化による収益性の向上などに取り組む農業者に対し、「農」のあるまちづくり担い手支援対策事業補助金の積極的な活用や利用を促進して参ります。

続きまして、概要書の右側を御覧ください。方策④といたしまして地域計画の策定でございます。「農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律」が令和5年4月1日に施行されまして、各地区において10年後の地域の農地利用について、明確化する「地域計画」を令和7年3月までに策定することになりました。

地域計画とは、農業従事者の高齢化による後継者不足や担い手不足という課題がある中で、地域の農地を守るため農業者や地域の皆さんの話し合いで作る、将来の農地利用の姿を明確化した地域農業の設計図です。地域計画の叩き台の作成にあたりましては、農業委員の皆様にご協力をいただきありがとうございました。

地域計画を策定しますと、農地がずっと守られる、日本の農産物がずっと作られ自給率の向上につながる、新しい農地が利用できる、農地が荒れることがなくなる、地域が活気づくという利点につながります。

こちらの概要書に掲げた課題や方策は「宮代農業振興地域整備計画書」に記載されている一部でございますが、今説明いたしました方策の4項目は、この計画書に8つの計画がありますが、どれもがキーワードのように関連しております。

宮代農業振興地域整備計画書の変更についての説明は以上でございます。御審議よろしくお願いたします。

(会長)

それではこの件について御審議お願い申し上げます。

御意見ないようでございます。それではこの件に関しましては、「原案のとおり」としてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願い申し上げます。

<全員挙手>

(会長)

「挙手全員」ということで、この案件については「原案のとおり」とすることといたします。

(会長)

続きまして、日程第5・議案第27号「水稻の斑点米カメムシ被害に関する要望書について」を上程いたします。こちらの案件につきましては、私の方から説明をさせていただきます。お手元に要望書と資料を御用意ください。

水稻の斑点米カメムシ被害に関しましては、当町においても被害が深刻な状況となっておりますことから、水稻生産者の負担軽減のための支援策を整備できないかという趣旨の要望をまとめさせていただきました。要望書案については、委員の皆様や農地利用最適化推進委員の皆様には事前に送付させていただいております。また、先日の農業委員会視察研修の際にも、参加された皆様には私の方から要望の趣旨について説明をさせていただきました。

本日、皆様の御賛同をいただければ、総会終了後に町長に提出したいと考えております。

改めて、この場で要望書案を読み上げさせていただいて、提案をさせていただきたいと思っております。

<要望書の読み上げ>

以上が要望書の内容となります。事務局、何か説明はありますか？

(事務局)

補足をさせていただきます。皆様のお手元に参考資料をお配りしております。こちらにつきましては事前に皆様に送らせていただいた要望書に同封させていただいたものでございます。こちらの資料は、最近の斑点米カメムシをめぐる状況につきまして簡単にまとめたものでございます。

元々、水稻の斑点米カメムシ類につきましては、予ねてから畦畔等にたかつ

て、草刈り作業を行うと稲穂に吸い付いてしまうということで、ずっと大きな問題となっておりましたが、昨年くらいから県内で斑点米カメムシ類の中でもイネカメムシというものが、非常に厄介な虫であるということでクローズアップされてきております。このイネカメムシ類の関係については、春に国の方から通知が発出されまして、各農業者団体や生産者団体に周知がされておりました。町の方でも、国や県が作成いたしましたチラシ等に基づきまして、皆様に御案内をさせていただきました。

このイネカメムシについては、御覧の写真のように、吸い付いてしまうと、お米の粒に黒い斑点がついてしまったり、或いは穂が出ている状況の中でイネカメムシが吸い付いてしまうと、本来であれば頭を垂れるような稲穂が生えてきていると思いますが、頭が垂れずにピンと立ったままの状況になってしまうということでございます。

イネカメムシについては実際に今年、町内の水田におきましてもかなりの被害があり、早いところだと7月の初旬から、各田んぼで稲に飛来しておりまして、稲穂にくっついて汁を吸ってしまうという状況でございました。

次に、資料の2ページ目を御覧ください。このようなことがありましたので、県の方から「令和6年度病虫害予察注意報第5号」というのが発行されまして、更なる徹底防除について各農家の皆様に周知されまして、町もホームページ等で周知をさせていただきました。

また、JA 南彩では早い段階から宮代町内の水稻生産者に対しましては、JA が実施しております、ドローンを使った空中散布の参加の呼びかけがされております。そこには町内の農家さんが申込みをされており、全体で申込みをされたのが、60 軒の水稻生産者と伺っております。その中には、まとまった地域で広い面積で同時に効果的な薬剤散布が出来るように取りまとめをしていただいた方もいらっしゃり、御尽力いただきました。その結果、宮代町全体で90haの水田で、ドローンを使った空中散布が実施されました。なかでも宮東中島地区におきましては、全体的に広い面積で26haの広域での集団防除に繋がっております。資料の下段には、ドローンを使ったカメムシ防除にかかる薬剤等の経費について、農協から提供していただいた経費の一覧と農協が実施しております、ドローンを使った空中散布の委託料について記載させていただいております。

こういったカメムシを退治するための費用が、生産コストが上昇している中で、さらに上乘せされるような形になっており、水稻農家さんもかなり経営がひっ迫しているということでございます。

参考に、3ページ目に令和6年産で、JA 南彩に出荷された宮代産のお米の農産物検査の結果の速報値を記載させていただいております。今年については、カメムシによる影響のほか、昨年から引き続き猛暑ということで非常に暑い日

が続きました。さらに稲の生育の中で、出穂期にあたる時期から穂が実る時期までずっと夜間の気温も下がらず、高温の状態が続いたことによって、検査の結果におきましては、2等、3等、あるいは等外ということになりました。

なお、等級が下落したお米に関しまして、農協の方からの情報によりますと、カメムシ防除の対策を講じられた方につきましては、ほぼ斑点米等の被害粒の影響はほとんど無かったと伺っております。そのため、今年度の等級下落の大きな要因は、猛暑による白未熟粒の発生ということで伺っております。

今回は参考として、こういった資料をつけさせていただきました。このような地球温暖化に伴いまして、今までほとんど見られなかったものが、この異常気象の中で身近なものとして生産農家の水稲経営を圧迫しているということで、この資料を作成させていただきました。要望書（案）作成にあたって、参考にさせていただきました。よろしく願いいたします。

(会長)

関係資料の説明等もございましたが、何か御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか？

(■番 ■■委員)

要望書を出していただけるのはそれが一番ありがたいのですが。

昨年私もドローンの薬剤散布をやりましたが、金額的にはドローンの代金が1,500円、薬剤が862円でした。合計2,400円程度で済みます。自分で薬剤を買って自分で散布をすれば3,400円ぐらいはかかりますから、ドローンで片っ端から薬剤を散布していくのが私は一番効果的だと思っています。私の周りで行った時に、周りの方に「久しぶりに白い米を見た」、「やった甲斐があった」と非常に喜んでもらえました。集団防除をするのが一番効きますから、これからは、農業委員や推進委員が先頭に立って、集団防除をやっていただきたいと思っています。

また、補助について要望書に書かれていますが、共済の方から既に薬剤散布についての補助が出ます。共済の補助と内容が重ならないようにしていただきたいと思っています。

(会長)

他に何か御意見ありますでしょうか。

御意見ないようでございます。この件に関しましては、御提案させていただいた要望書を提出させていただいてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願い申し上げます。

<全員挙手>

(会長)

「挙手全員」ということで、それではこの件については御賛同をいただいたということで、要望書をこの後提出させていただきたいと思います。

(会長)

続きまして、日程第6「報告事項」について、事務局報告をお願い申し上げます。

(事務局)

それでは今回の報告事項について御説明させていただきます。

今月は各種届出の締め日が10月10日となっております。10日までに4条届出が1件、5条届出が3件ございましたことを御報告させていただきます。以上でございます。

(会長)

ただいまの報告事項につきましては、宮代町農業委員会会長専決規程に基づく、専決事項でございます。このことから質疑等については割愛させていただきます。御了承ください。

それでは、以上をもちまして、令和6年第10回農業委員会総会における審議・報告案件の全てを終了いたします。

令和6年11月25日

会 長 _____

署名委員 _____

署名委員 _____